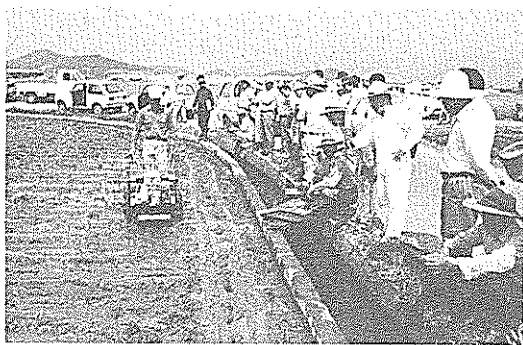


田植機でダイズを植える

秋の収穫に期待ふくらむ



田植機でダイズを植える高島さん

周辺では早期稲の収穫が始まった八月四日、大埔（稲吉）の高島俊一さんの五畝の田んぼで、ちょっと想像がつかない、めずらしい「ダイズを田植機で植える」試みが、県下で初めて行われました。

この方法でできないものか」と、いわば技術の先取りでタバコ跡の田んぼに試験的に植え付けられたもの。

この日にそなえて、高島さんは一週間前から水稲用の育苗箱にダイズを一箱当り千粒ほどまき、約十センチに苗を育てて準備万端。そして、水田にした田んぼに、少し手を加えた田植機で稲を植えると同じように次々と植えて行きました。

また、隣の田んぼでは、従来のとおり畦立して種まき（二・三粒）されたダイズが生育しており、田植機方式によるものとの生育状況や収量の比較試験が行われることになっています。

秋ダイズは、十畝当り三百kgが目標収量で、この方法で増収につながれば、転作奨励金プラス現金収入の増となり、安定した転作物物として定着できるかどうか、高島さんや関係者らは早くも秋の収穫に期待をふくらませています。

香長平野にやっと「夏」 「新米」早くも出荷



籾の受け入れに大忙し（市農協ライスセンターで）

とか。

心配された台風十号も遠くへ去り、急に南国らしい日射しがもどった八月二日、市内の各地で一斉に黄金色に色づいた早期稲の稲刈りが始まりました。

上野田にある南国市農協のライスセンターを訪ねてみると、コンバインで農家が刈り取った稲の受け入れに大忙がしの状態。

搬入された稲は、さっそく乾燥・調整されて次々に「新米」となっています。そして、三日には早場米として県外へ初出荷されました。

今年の早期稲の作物は、出穂期の不良天候で平年よりやや不作のよう、農協の常務指導員は「コシヒカリの収量・品質が心配だ」と気遣っていました。

（市民の声）

火事の

怖さを知って

普段から「火の用心」には心掛けをしていたものの、ちょっとした不注意で出火してしまい、皆さんには大変な迷惑や心配をおかけしました。

私が気づいた時には、煙がたちこめ、自分たちの手ではどうしようもないほどでしたが、近所のかたが早く発見してくれて消防へ通報してくださったため、大事に至らずに済みました。他人事のように思っていた「火の怖さ」を身にしみて痛感しました。

いち速くかけつけてくれた消防分団の皆さんを始め、近所の皆さんには大変お世話になり、紙面をかりてお礼を申し上げます。

財産だけでなく、運が悪ければ人命まで奪う「火事」の怖さを知った今日、市民の皆さんにも「火の用心」を呼びかけ、これからは一層、火の元には気をつけたいと思います。

【岡豊町 吉田好 70歳】